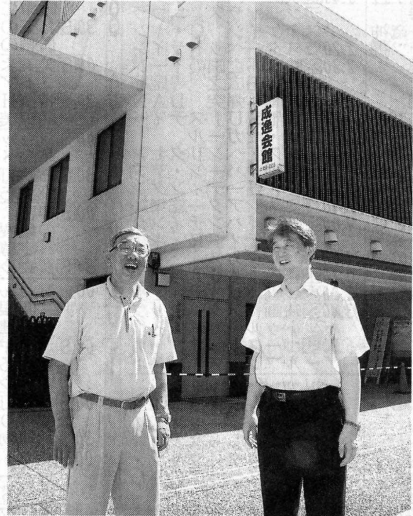


# 元学区 ものがたり 成逸

上京区の北端に位置し、史跡や由緒ある神社が散在する成逸学区(上京区)。学区を貫く大宮通は、古くから交通の要路として栄え、商人宿や呉服店などが商店街を形成していった。成逸住民福祉協議会長の小森裕さん(60)は「小規模ながら歴史の深さを感じさせる地域」と話す。

旧成逸小が1997年に閉校後、校舎は取り壊され、2004年4月、跡地に市立北総合支援助学校が開校した。現在、小学部、高等部までの児童、生徒計約200人が通う。敷地内には高齢者のデイサービスセンターや、自治会館も併設されている。

学区の人口約2500人のうち、65歳以上が約3割を占める。同協議会では、一人暮らしのお年寄りを対



旧成逸小跡地を拠点に福祉のまちづくりを進める小森さん(左)と川田さん(上京区で)

## 「福祉のまち」固い結束

象に、月1回の配食サービスや会食交流会を実施。さらに、家庭用火災警報器の取り付けや布団のクリーニングサービスなど、自治会館などを拠点に、細やかな福祉事業に取り組んでいる。同協議会副会長の川田雄司さん(55)は、「行政の手が届かない部分に手を差し伸べるのが自治会の役割」と力を込める。

一方、これまで地域とつながりが希薄だった賃貸マンションの学生住民とも交流を深めている。災害時

■成逸学区 1869年(明治2年)、上京第2番組小として開校。75年に成逸小となった。児童数はピーク時の1958年度には800人、96年度には115人に減少。97年に西陣、桃菌、聚楽の近隣3小と統合し、桃菌小跡地に西陣中央小が誕生した。平安時代には斎王の住まいである斎院が置かれ、貴族の往来でにぎわった。西陣織の産地としても名をはせ、西陣織の発展を支えた。

「自治会活動の原点は、顔見知りをつくることが。それが助け合いのできる安全、安心なまちづくりの根底になる」と小森さん。「福祉のまち」を発展させていくため、学区の結束を強めている。(田島武文)

「元学区ものがたり」は月1回の掲載です。地元の「元学区」自慢、この連載についての意見、感想などをお寄せください。〒604・8162京都市中区(田島武文)